



MBT NEWS LETTER

第48号
'20 /06/18

麻酔科学：川口昌彦教授が推進の「病院快適環境プロジェクト」 集中治療室と一般病棟に疑似窓を設置し患者やスタッフへの効果を検証

- ・奈良医大麻酔科学の川口昌彦教授は、病院内の患者及び医療スタッフのストレスを軽減し、快適で療養に集中できるEMC(Effective Medical Creation:効果的医療環境構築)コンセプトによる集中治療室を構築し、このコンセプトを一般病棟へも展開することで快適な医療環境づくりを目指す表題プロジェクトを推進中です。
- ・川口教授は、2016年から“けいはんなリサーチコンプレックス事業”に参加し、同志社大学の三木光範教授が進める「疑似窓」に注目、病院内での有効性を評価しようと導入を進めてこられました。「疑似窓」とは、高精細液晶ディスプレイを窓枠で囲い、外の景色を撮影するライブカメラからの映像を映し、外の風景や天気の様子を楽しむことができない病室でも疑似的に楽しめる環境を作り出すものです（左下写真）。
- ・疑似窓の有効性を確認した川口教授は、第2段として2019年からアトモフ(株)（本社：京都市中京区）が製造・開発を手掛ける55インチの大型スマートウィンドウ「Atmoph Window Up」に着目し、アトモフ(株)に医療施設用の共同開発を呼びかけてきました。そして、その成果を2020年3月に集中治療室（右下写真）及び一般病棟（C棟5階）に導入しました。一般病棟では、脳神経内科:杉江和馬教授との共同研究で、疑似窓設置による睡眠や認知機能への影響についても検討中です。
- ・MBTは、2016年から川口教授が進める企画に参加して活動を支援してきました。将来のEMCに基づく新しい医療環境構築の事業化を目指して支援を継続していきます。



発行

(一般社団法人) MBTコンソーシアム、
奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内

(公立大学法人) 奈良県立医科大学
担当 塩山

TEL : 0744-29-8853 (内線2561) 、 FAX : 0742-90-1070 、 Email : mbt@mbt.or.jp